

私は 7 年前愛知県の他市から引っ越して来た時、まず最初に市役所、銀行、その他の公共施設が公共交通の駅から遠く、バスは本数が少なく料金も高い等々で、各種届出手続きなどで大変苦労しました。その状態は、現在も変わっていません。多くの高齢者、障がいを持った人等々が病院、医院、買い物、その他公共施設へ行くのが不便でタクシーを使うしかないと嘆いています。

現在の半田市の公共交通である JR、名鉄、知多バスでそれらの要望に充分応えられているとは思えません。

人は、たとえ障がいがあったとしても何処へでも出かけたいたいと思うし、行政は可能なかぎり、それらを実現させるために支援する義務があると思います。最近では外出をできるだけすること、会話をすることは認知症予防にもなると言われています。認知症だけでなく生活習慣予防にも役立つと言われています。公共交通を充実させることは、車の渋滞を少なくし、大気汚染の減少、町の活性化、観光振興、高齢者の交通事故の減少にもつながります。

隣町の東浦町は、巡回バスを 2001 年から開始し、昨年 11 月に乗客が 300 万人に達した記念イベントをしました。人口 5 万人の東浦町は、巡回バスのために 5,600 万円を町が負担しているとのこと。また、豊田市ではマイカーを持つ有志の人とマイカーを持たなくて外出したい人がタブレットを持ち、お互いに連絡しあって不便なところからでも外出できるシステムを名古屋大学の協力を得て 2 か月間の実験をすると聞きました。

豊田市の担当者が言っています。「過疎や高齢化が進む山間地でも、自由に移動でき、地域で安心して暮らせることが欠かせない。買い物や通院だけでなく、いろいろな催しにも足を運びやすいように交通手段を充実させ、外出機会が増えれば健康にもつながる」と。

いろいろな困難、様々な意見があると思いますが、半田市にも 1 日も早く新しいシステムの実現を願い、地域公共交通会議に参加したいと思い応募いたします。